

全校生徒が詠んだ短歌の中から、優れたものを紹介します。
十月のお題は「秋のもの」・「空を詠み込む」・「台所」です。

月間賞

十七歳体は大きくなったのに空が高くて俯いてしまう

三・三 桑折 文千

第二席

秋の夕追いかけて追いこし赤トンボ目の前の背が儂く遠のく

一・三 千葉みずき

第三席

秋の日の夕やけ空に飛ぶトンボお前はとても自由なんだな

二・一 只野 孝汰

優良賞

ふと気づく辺りが紅に染まるとき鳥の影が私をおおった
雨の後青い空に虹が出る今日は良いことあるかもしれない
モンブランクリームすくえばふわふわと何があるかと幸福の時
鮮やかな赤い色したとんぼたち夕空溶けこみ帰路に導く
空気澄み見上げる空に吐く息は満天の星を見えなくさせる
帰り道甘い匂いが頬をなで金木犀が私を包む

三・二 平田 葵
二・三 後藤 瑞希
一・一 伊藤 玲奈
一・一 及川 優花
一・三 斉藤 佑果
一・三 佐々木芹奈

佳作

黄金の稲穂を刈って飛び立った赤いトンボはどこへいくのか
帰り道とぼとぼ歩きふと思う心のような空模様
部活帰り冷たい秋風吹いている肌で感じる秋のはじまり
夕暮れの真っ赤に燃える太陽が影をのばして消えてゆく
曇り空沈んだ気分ですら黒に染める晴れ間は遠いが風は吹いた
部活後にそっと見上げた夜空には世界を照らす秋の満月
ゆらゆらと落ちる紅葉に目をうばわれそこだけ時間が止まったような
はらりはら落ちる紅 深緑の想いを知らず腐敗していく

三・一 加藤 仁美
三・三 佐藤 弥月
二・一 阿部 壮馬
二・一 大久保玲良
二・三 佐藤 優希
一・二 菊地 茉帆
一・三 斉藤 佑果
一・三 佐々木愛梨